

メロン(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	べ と 病	疫 病	菌 核 病	黒 点 根 腐 病	炭 疽 病	苗 立 枯 病	つ る 枯 病	う ど ん こ 病	果 実 汚 斑 細 菌 病	斑 点 細 菌 病
ドイツボルドーA水	M1		-	-										◎
タチガレン液	32		*c	1						⒫				
トップジンM水	1		1	3							◎			
トップジンMペースト	1		*a	1							◎			
ベンレート水	1		1	3			◎							
アフエットFL	7		1	3							◎	◎		
カンタスDF	7		1	3			◎							
ケンジャFL	7		1	3							◎	◎		
パレード20FL*1	7		1	3			◎				◎	◎		
アミスター20FL	11		1	4	◎						◎	◎		
スクレアFL	11		1	3			◎	◎						
ストロビーFL	11		1	3	◎						◎	◎		
ライメイFL	21		1	4	◎									
ランマンFL	21		1	4	◎									
フルピカFL	9		1	4								◎		
セイビアーFL20	12		1	3			◎							
リゾレックス水	14		*d	1				◎						
		*e	1					◎						
サブロール乳	3		1	6								◎		
スミレックス水	2		1	3			◎							
ロブラール水	2		1	4			◎				◎			
スコア顆水	3		1	3							◎	◎		
トリフミン水	3		1	5							◎	◎		
マネージDF	3		1	4								◎		
ポリオキシシNAL溶	19		1	5							◎	◎		
アリエッティ水	P7		1	3	◎									
ピシロックFL	U17		1	3	◎									
キノンドー水40	M1		10	5	◎			◎					◎	◎
サンヨール乳	M1		1	4								◎		
ドキリンFL	M1		10	5							◎		◎	
ヨネボン乳	M1		7	4	◎							◎		
ジマンダイセン水	M3		7	5	◎	◎		◎			◎			◎
ペンコゼブFL	M3		7	5	◎						◎			
オーソサイド水80	M4		*b	5						◎				
		14	5	◎		◎	◎							
ダコニール1000FL	M5		3	5	◎					◎	◎			
パルミノFL	M10		3	10							◎			

メ  
ロ  
ン

メロン(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	べと病	疫病	菌核病	黒点根腐病	炭疽病	苗立枯病	つる枯病	うどんこ病	果実汚斑細菌病	斑点細菌病
モレスタン水	M10		3	10								◎		
リドミルゴールドMZ顆水	4・M3		7	3	◎									
フォリオゴールドFL	4・M5		3	3	◎						◎	◎		
ピカットFL	7・9		1	3							◎	◎		
ベジセイバーFL	7・M5		3	3	◎						◎	◎		
アミスターオプティFL	11・M5		3	4	◎		◎				◎	◎		
ファンベル顆水	11・M7		1	5			◎				◎	◎		
ホライズンDF	11・27		1	3	◎									
ドーシャスFL	21・M5		3	4	◎						◎	◎		
ショウチノスケFL	9・U13		1	2								◎		
カスミンボルドー水	24・M1		3	5								◎	◎	◎
パンチョTF顆水	3・U6		1	2								◎		
テーク水	3・M3		7	5	◎						◎	◎		
ダイアメリットDF	19・M7		1	5							◎	◎		
ポリベリン水	19・M7		1	5							◎	◎		
バトファイター顆水	40・27		3	3	◎									
カンパネラ水 ベネセット水	40・M3		7	5	◎									
カーニバル水	40・M5		3	3	◎						◎	◎		
プロボーズ顆水	40・M5		3	5	◎						◎			
カーゼートPZ水	27・M3		7	3	◎									
ブリザード水	27・M5		3	3	◎									

\*1:「うり類(成熟)」での登録

\*a:発病初期(但し収穫21日前まで) \*b:播種後~2~3葉期まで \*c:播種時

\*d:定植時 \*e:生育期(但し収穫21日前まで) ◎:ピシウム菌による病害

メロン(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	ア ザ ミ ウ マ	ア ブ ラ ム シ	コ ナ ジ ラ ミ	ハ モ グ リ バ エ	ウ リ ノ メ イ	ハ ス モ ン ヨ ト	オ オ タ バ コ	ネ キ リ ム シ	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	ウ リ ハ ム	ケ シ マ ル ト ビ ム	ハ ダ ニ	ネ ブ セ ン チ ユ
スピノエース顆水	5		1	2	◎			◎	◎								
コロマイト乳	6		1	2			◎	◎									◎
バイデートL粒	1A	劇	*e	1	地												
			*d	1	揚												
スミチオン乳	1B		1	5	◎	◎											
ダイアジノン乳40	1B	劇	14	4		◎										◎	◎
ダイアジノン粒5	1B		*b	2								◎			◎		
				14	4								◎				
ネマキック粒	1B		*d	1													◎
ネマトリンエース粒	1B		*d	1													◎
マラソン乳	1B		1	3		◎								◎			◎
ラグビーMC粒	1B		*d	1													◎
アーデント水	3A		1	5	ミ	◎											◎
アディオソ乳	3A		1	5		◎											
サイハロン乳	3A	劇	1	1		◎											
テルスター水	3A		1	4		◎	タ										◎
マブリック水20	3A	劇	3	2		◎											◎
アクタラ顆溶	4A		1	3	ナ				ト								
アクタラ粒5	4A		*c	1	ナ	◎		◎									
アドマイヤー顆水	4A	劇	*a	3	◎	◎	◎										
			*f	1	◎	◎	◎										
アドマイヤー1粒	4A		*c	1	◎	◎	◎										
アルバリン顆溶	4A		3	2	◎	◎	◎										
スタークル顆溶					◎	◎	◎										
アルバリン粒	4A		*c	1	◎	◎	◎	◎									
スタークル粒					◎	◎	◎										
ダントツ溶	4A		1	3	ナ	◎	◎	◎						◎			
ダントツ粒	4A		*f	1		◎	◎										
			*c	1	ナ	◎	◎	ト									
			*g	3		◎											
バリアード顆水	4A	劇	1	3	ナ	◎	◎		◎								
ベストガード溶	4A		7	3	ナ	◎	◎										
ベストガード粒	4A		*e	1		◎	◎										
			*c	1	ナ	◎	◎										
モスピラン顆溶	4A	劇	3	3		◎											
トランスフォームFL	4C		1	3		◎	◎										
ディアナSC	5		1	2	◎		◎	◎	◎								
アグリメック乳	6	劇	1	3	◎		◎										◎
アニキ乳	6		1	4			◎	◎									
アフーム乳	6		1	2	◎		◎	◎	◎								

メ  
ロ  
ン

メロン(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	ア ザ ミ ウ マ 類	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ウ リ ノ メ イ ガ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ ガ 類	オ オ タ バ コ ガ 類	ネ キ リ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類	ウ リ ハ ム シ 類	ケ シ ラ 類	キ ボ シ マ ル ト ビ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類
コルト顆水	9B		1	3		◎	◎											
チェス顆水	9B		3	4		◎												
ニッソラン水	10A		3	2													◎	
パロックFL	10B		1	2													◎	
アタブロン乳	15		14	3	ナ		タ	◎										
カスケード乳	15		7	3	ナ		タ	ト										
トリガード液	17		1	3				ト										
マトリックFL	18		1	3				◎										
マイトコーネFL	20D		1	1													◎	
カネマイトFL	20B		1	1													◎	
サンマイトFL	21A	劇	3	2		◎	◎										◎	
モベントFL	23		*h	1	灌	灌	灌											灌
			1	3	◎	◎	◎											◎
スターマイトFL	25A		1	1													◎	
ダニサラバFL	25A		1	2													◎	
フェニックス顆水	28		1	2				◎		◎								
プリロソツ粒	28		*i	1		◎					◎							
プレバソンFL 5	28		1	3				◎			◎							
ベリマーク S C	28		*h	1	灌	灌	灌											
			1	2	◎	◎	◎											
ヨーバルFL	28		*h	1	灌	灌	灌											
			1	2	◎	◎	◎											
ウララDF	29		1	2		◎	◎											
グレーシア乳	30		1	2	◎		◎	◎	◎	◎	◎						◎	
ダニオーテFL	33		1	2													◎	
プレオFL	UN		1	2	◎			◎	◎									
サンヨール乳	-		1	4		◎											◎	
ダブルシューターSE	5・-		1	2	◎		◎	◎	◎								◎	
アブロードエースFL	16・22A		1	3			◎											

\*a: 収穫3日前まで (但し露地栽培については着果後から) \*b: 播種時又は定植時  
 \*c: 定植時 \*d: 定植前 \*e: 育苗期 \*f: 育苗期後半 \*g: 定植後(但し収穫前日まで)  
 \*h: 育苗期後半～定植当日 \*i: 育苗期後半～定植時  
 タ: タバココナジラミ類(シルバーリーフコナジラミを含む)  
 ト: トマトハモグリバエ ナ: ミナミキイロアザミウマ  
 ミ: ミナミキイロアザミウマ及びミカンキイロアザミウマ  
 地: 地床でミナミキイロアザミウマに適用  
 揚: 揚床でミナミキイロアザミウマに適用  
 灌: 灌注処理での登録

## メロン(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	苗床期～生育期	<p>・次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>ジマンダイセン水和剤 400～600倍</p> <p>ダコニール1000 (FL) 700～1000倍</p> <p>ドーシャスフロアブル 1000倍</p> <p>プロポーズ顆粒水和剤 1000倍</p> <p>ホライズンドライフロアブル 2500倍</p> <p>ライメイフロアブル 2000～4000倍</p>	
つる枯病	生育期	<p>1. 発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>ジマンダイセン水和剤 400～600倍</p> <p>スコア顆粒水和剤● 2000倍</p> <p>ダコニール1000 (FL) 1000倍</p> <p>トップジンM水和剤● 1500～2000倍</p> <p>ベルクートフロアブル 1000倍</p> <p>ペンコゼブフロアブル 500倍</p> <p>ロブラール水和剤● 1000倍</p> <p>2. 茎に発生を見たら、ただちに病斑部を削り取りトップジンMペーストを塗布する。</p>	<p>本病菌は他のウリ科植物も侵し、発病適温の範囲が広い。</p> <p>●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。</p>
うどんこ病	生育期	<p>・発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>スコア顆粒水和剤● 2000倍</p> <p>ダコニール1000 (FL) 700倍</p> <p>トリフミン水和剤● 3000～5000倍</p> <p>パンチョT F顆粒水和剤● 2000倍</p> <p>フルピカフロアブル 2000～3000倍</p> <p>ベルクートフロアブル 1000倍</p> <p>ポリベリン水和剤 1500～2000倍</p> <p>モレスタン水和剤△ 2000～4000倍</p>	<p>●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。</p> <p>△モレスタンは高温時に薬害を生じるおそれがあるので使用をさける。</p>
つる割病	播種前	<p>1. 土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。</p> <p>2. 支柱は新しいものを使用する。古い支柱を使用するときはあらかじめ消毒する。</p> <p>3. 接木栽培を行う。△</p>	<p>病原菌は数年間土中に残り、主としてメロンを侵すが、マクワウリ、シロウリも侵す。</p> <p>△接木台…<u>温室メロン</u>: エメラルドゼム、パーネットヒルヘポリット、大井</p> <p><u>露地・ハウスメロン</u>: カボチャ(新土佐、鉄かぶと)</p>
	生育期	<p>・発病株は早期に抜きとり焼却する。</p>	

## メロン(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
モザイク病		1. アブラムシ類を駆除する。 2. シルバーマルチ(ムシコン等)によるマルチ栽培も有効である。	
アブラムシ類(ワタアブラムシ)	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララDF 2000～4000倍 マブリック水和剤20 4000倍	
ミナミキイロアザミウマ	定植時	・次の薬剤を植穴又は株元に土壌混和する。 アドマイヤー1粒剤# 1～2g/株	#アザミウマ類での登録
	生育期	・生育初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 アタブロン乳剤 2000～4000倍 スピノエース顆粒水和剤# 5000倍	
ウリノメイガ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタブロン乳剤 2000倍 スピノエース顆粒水和剤 5000倍	
ウリハムシ	成虫発生時	・成虫の発生が多い時は次の薬剤を散布する。 マラソン乳剤 1000倍	山沿地域で発生が多い。
ハダニ類	生育期	・発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 ダニサラバフロアブル 1000倍 マブリック水和剤20 2000倍	
ネコブセンチュウ	播種前	・床土は土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。	
	定植前	1. 作付予定地は土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 ネマキック粒剤 15～20kg/10 a ネマトリンエース粒剤 15～20kg/10 a	